

▼ ファームウェア アップデート手順書

YAESU
The radio

FTDX9000 MP タイプ用

本製品をいつも最高の状態でご愛用頂くために、最新のファームウェアにアップデートされる事をお薦め致します。PEP9000作業後の本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ※¹と市販のシリアルケーブル※²をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウェアをアップデートさせることが可能となっています。(“ファームウェア”とは、本体内部で動作しているソフトウェアの事です。)

(お客様での作業は、本手順書を最後までよくお読みになり、作業の流れをご理解頂いた上で、ご自身の責任において行って下さい。正しく作業が出来なかった場合の不具合につきましては、弊社にて有償で保守を承ります。)

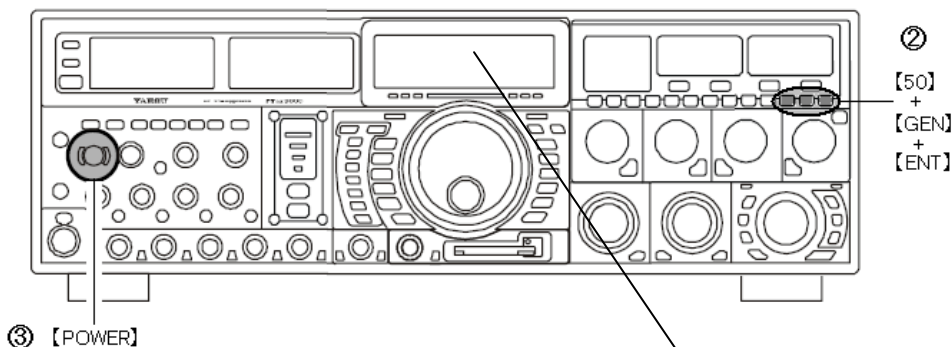
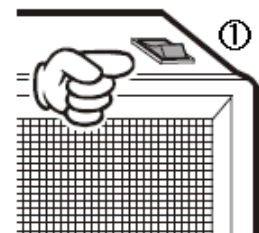
1. ファームウェアのバージョンを確認します。

■ ファームウェアのバージョンを表示させます。

手順①. 専用外部電源 FPS-9000H の【主電源】スイッチを入れます。

(このときは未だ本体前面側の【POWER】スイッチは入れないで下さい。)

手順②. 【50】、【GEN】、【ENT】3つのキー位置を確認します。



手順③. 手順②のキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れます。

■ この手順によりファームウェアのバージョンが一定時間だけ表示します。



※ RXU-9000が実装されていないMP Contestモデルでは、Sub DSP Ver は表示されません。同様に、DMU-9000が実装されていないモデルでは、DMU Ver は表示されません。

2. 最新ファームウェアのバージョンを WEB で確認します。

- 当社のホームページよりファームウェアの最新情報を確認して、上記表示よりも数字が更新されていたら、続く手順によりアップデートすることをお薦めします。

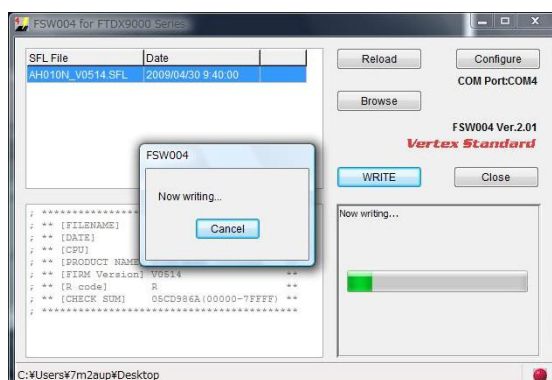
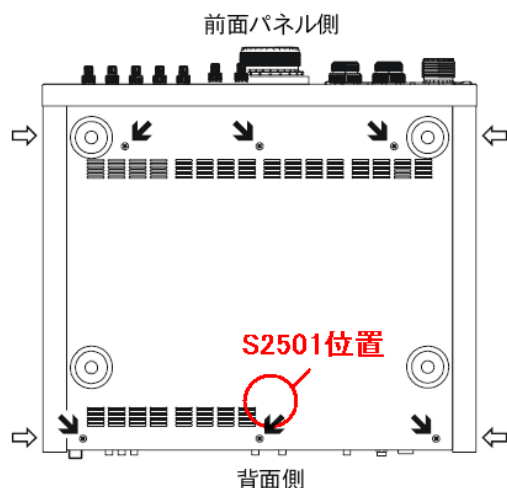
- F T D X 9 0 0 0 Contest には、実装内容により以下最大3項目それぞれに専用のファームウェアがありますので、必ず同時期の物がアップデートされているかをご確認下さい。

- ①. メインファームウェア（システム本体のファームウェアです。）
- ②. D S Pファームウェア（メイン送受信機と、サブ受信機、それぞれのD S Pに関するファームウェアです。）
- ③. D M Uファームウェア（T F T表示部のファームウェアです。製造時期によりバージョンは2種類^{※3}です。）

3. ファームウェアが更新されていたら次の手順でアップデートします。

①. メインファームウェアの更新

- ・ 前面パネルの【POWER】スイッチ、続いて専用外部電源 F P S-9 0 0 0 H 上面の【主電源】スイッチを切り、電源ケーブルを含むすべての接続ケーブルを一旦抜き去ります。
- ・ 下図を参考に、本体ケース底面を開け、T Xunitにある、ファームウェア更新用切替スイッチS 2 5 0 1の位置を確認し、同時にこのスイッチがO F Fとなっていることも確認しておきます。
- ・ 予め用意されたパーソナルコンピューター（以降P C^{※1}と表記）、本体背面C A T端子間を、用意されたシリアルケーブル^{※2}で接続し、さらに本体には電源ケーブルのみ接続し、接続したP C^{※1}を起動します。
（※1, 2の詳細は、本説明書の“5. 用意するものについて”をご参照下さい。）
- ・ P C^{※1}の転送ソフト FSW004. exe を起動し、続いてファームウェア更新用切替スイッチS 2 5 0 1のノブをO Nの位置にスライドします。（切替スイッチは頻繁な操作に耐えるものではないため、無理な力を加えないよう取扱にはご注意下さい。）



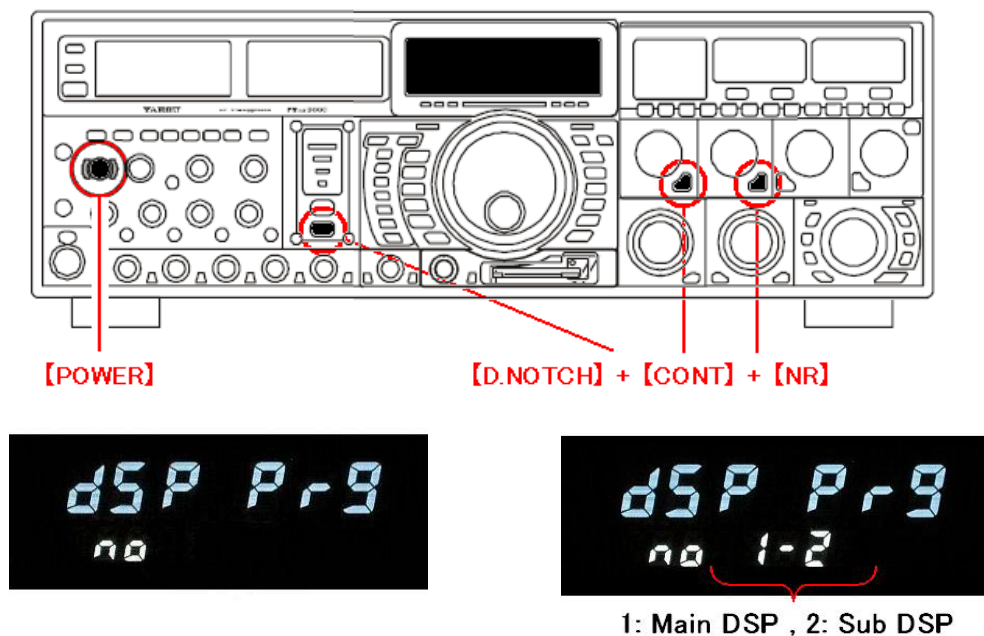
- ・ 以上の準備が完了したら、本機背面の【主電源】スイッチのみをO Nとして、転送ソフト FSW004. exe 上で同時にダウンロードした最新のファーム・ファイルを選択し、[W R I T E] をクリック。本機に転送します。

(実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末の“6.トラブルシュート”をご参照下さい。)

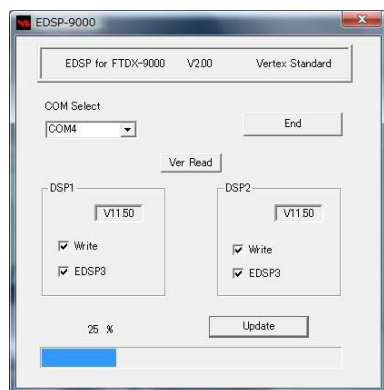
- ・ 転送時間は、ご用意頂いたPC※¹の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意ください。
- ・ 転送が完了したら本体背面の電源スイッチを切り、シリアルケーブル※²を本体から外して、S2501を元のOFF位置に戻します。
- ・ 再び本機背面の【主電源】スイッチをONとした後、前面パネルの[FAST]キーと[LOCK]キーを同時に押しながら本機前面パネルの【POWER】スイッチをONとしてリセット・スタートさせます。
- ・ さらに本機前面パネルの【POWER】スイッチをOFFとして、1項のバージョン確認方法によりファームウェアが更新されたことが確認出来たら底ケースを元に戻して作業完了です。

②. DSPファームウェアの更新

- ・ 本文1項のバージョン確認方法により、メインファームウェアの更新（もしくは最新であることを確認）が完了しましたら、続いてDSPのファームウェアを更新（もしくは最新であることを確認）します。
- ・ DSPのファームウェアの更新作業は、メインファームウェアの作業で操作した内部スイッチの操作は不要ですのでケースを開ける必要はありません。予め用意されたPC※¹と、本機背面CAT端子間を、ご用意頂いたシリアルケーブル※²で接続し、さらに本機には電源ケーブルのみ接続し、PC※¹を起動します。
- ・ 以上の準備が完了したら、本機背面の【主電源】スイッチをONとし、続いて下図を参考に、【CONT】、【DNR】、【DNF】3つのキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れます。



はじめは左側の表示が現れますので、DSPファームウェアの転送ソフト“EDSP-9000.exe”を起動し、[Update]をクリック。対象の“AH010H_VXXX 拡張子 out”ファイル最新版を選択して[開く]をクリック。PC※¹からの書き込みが始まると、PC画面図のように書き込み対象側のDSPが数字で現れます。(実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末の“6.トラブルシュート”をご参照下さい。)



- ・ 転送時間は、ご用意頂いたPC^{※1}の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意ください。（画面上の ☐Write、☐EDSP3 のチェックマークは、何れのモデルでも外さないで下さい。）
- ・ 転送が完了したら本機前面の【POWER】スイッチにより電源を切り、RS232Cケーブル^{※2}を本機から外し、PC^{※1}のファームウェア転送ソフトを終了させます。（※1、2の詳細は本説明書の“5. 用意するものについて”をご参照下さい。）

- ・ 最後に本機前面パネルの[F A S T]キーと[L O C K]キーを同時に押しながら同前面パネルの【POWER】スイッチをONとしてリセット・スタートさせて完了です。

③. DMUファームウェア（2種類^{※3}）

DMUファームウェアのアップデートが行われた場合には別途手順を公開しますが、現段階では前述の通り本機の製造時期により2種類^{※3}のハードウェアに対応したファームウェアのバージョンが存在します。いずれも性能は同等で、2種類のハードそれぞれ専用のファームウェアとなっているため互換性はありません。

4. アップデートされたバージョンに対応した取扱説明書を取得します。

アップデート作業後は、本機に対応した取扱説明書(PDF)をダウンロードしてご確認ください。

5. 用意するものについて

■ ファームウェア転送ソフトのセットアップ。

この手順書では、本機内にある2つのシステムにアップデートを行う必要があるため、お客様がご用意頂く、パーソナルコンピューター（PC^{※1}）には、以下2つの転送ソフトをダウンロードしてセットアップしておきます。弊社のWEBページより、それぞれのZIPファイルをPC^{※1}内に適当に作ったフォルダにダウンロードします。フォルダ内に保存したZIPファイルを解凍して、展開した全ファイルを、インストールするPC^{※1}のデスクトップなどにコピーします。

- ①. メインファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“FSW004.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH010N_VXXX 拡張子 SFL”ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。
- ②. DSPファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“EDSP-9000.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH010H_VXXX 拡張子 out”ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。

■ アップデート用に適したパーソナルコンピューター（PC^{※1}）の条件は・・・

- ・ COM（RS-232C）PORT のある パーソナルコンピューター
- ・ Microsoft Windows 2000 以上のオペレーティング・システム
- ・ ファームウェアとその転送ソフトインストール用に30MB以上の空き容量のあるハードディスク
- ・ 256MB以上のRAM
- ・ 1024×768の画面解像度、256色以上をサポートするビデオカードとディスプレイ

■ 作業に適したシリアルケーブル※2は・・・

使用可能なシリアルケーブル※2は、市販のRS-232C規格で、フル結線のストレートタイプをご用意下さい。
市販品の多くは、コネクタ部のオスメスが合致しますが、まれにオスメスが逆のタイプもありますので、事前にご確認下さい。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば、同環境で作業は可能です。

6. トラブルシューティング

■ 弊社のホームページでダウンロードできるファームウェアは圧縮（ZIP）ファイルです。

取得したZIPファイルは、解凍した展開した全ファイルを、インストールするPC※1のデスクトップなどに適当なフォルダを作り、コピーして使用します。（解凍して展開された転送ソフトのEXEファイルをそのままクリックしても起動しません。）

■ 転送ソフトを起動しても、COM（RS-232C）PORT を認識しない場合は・・・

接続したシリアルケーブル※2のCOM（RS-232C）PORTのCOM番号の優先順位が低い場合などでは、そのまま転送ソフトを起動してもCOM port Error 表示が出て転送できない場合があります。その場合には、メインファームウェアの転送ソフト“FSW004.exe”では、転送ソフト画面内の[Configure]の設定により、接続したシリアルケーブル※2のCOM番号と同じ物を選択することで転送が実行されます。

同じく、DSPファームウェアの転送ソフト“EDSP-9000.exe”を起動してもCOM port Error 表示が出て転送できない場合は、転送ソフト画面内の“COM Select”により、接続したシリアルケーブル※2のCOM番号と同じ物を選択することで転送は実行されます。

■ COM（RS-232C）PORT がないパーソナルコンピュータの利用について・・・

ノート型や、デスクトップで小型の物などでは、USB PORT だけで、COM（RS-232C）PORT が無い場合がありますが、市販のUSBシリアル変換ケーブルを利用する事で作業は可能です。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば同環境で作業が可能です。

接続したUSBシリアル変換ケーブルで増設したCOM（RS-232C）PORTを認識しない場合の多くは、パーソナルコンピュータのオペレーティング・システムが、USBシリアル変換ケーブルの接続に伴い、自動的にデバイスドライバを設定されたままの場合が多く、オペレーティング・システムのデバイスマネージャでは増設したCOM PORTが確認できていても、転送ソフトがそのCOM番号を認識できない場合があります。その時には自動で設定されたデバイスドライバをオペレーティング・システムのデバイスマネージャで削除した後、接続したUSBシリアル変換ケーブルを一旦外し、ケーブルメーカーのWEBサイトで、使用するオペレーティング・システムに対応したUSBシリアル変換ケーブルの最新のデバイスドライバを入手してインストールした後に、改めてUSBシリアル変換ケーブルを接続することで正常に認識することが報告されています。

PEP9000作業後の本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ※1と市販のシリアルケーブル※2をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウェアをアップデートさせることが可能となっていますが、本手順書の要領が不明なまま作業を行うと、本機が起動不能となるなど重大な不具合を引き起こしますので、本書を最後までよくお読みになり、ご自身の責任において行って下さい。アップデート作業は、お客様のご希望により、弊社でも有償で作業を承ります。

八重洲無線株式会社

アマチュア カスタマーサポート

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8

天王洲パースサイドビル 11F

TEL 03-6711-4045 FAX 03-6711-4272